

飯田市議会

地方議会評価モデル

実施報告書（案）

『くらし豊かな ^{あす}いいだの未来を 市民とともに』
～ 市民のしあわせに貢献する議会 ～

2023（令和5）年4月21日

目 次

1	はじめに	1
2	地方議会評価モデルの実施に至った背景	
	(1) 議会改革の取組の経過	3
	(2) 地方議会評価モデルの導入について	5
	(3) 議会プロフィールと成熟度評価の必要性	5
3	地方議会評価モデルの取組の経過について	
	(1) 議会改革推進会議による進行管理	6
	(2) 地方議会評価モデル運営プロジェクトによる運営	7
	(3) リーダー・サブリーダー会議における取組経過	7
	(4) グループ討議の開催経過	10
	(5) 大正大学江藤教授との意見交換会の実施	11
	(6) 全体会の開催	11
4	取組結果について	
	(1) 議会プロフィールの作成	11
	飯田市議会が取り組むスローガン、ミッション、ビジョンなど	
	(2) 成熟度評価の実施	29
	議会運営に必要な5つの視点に基づく評価の一覧	
	(3) 成果と今後の進行管理	35
5	おわりに	37
	(参考添付) 1 議会プロフィール	
	2 成熟度評価ワークシート	

1 はじめに

飯田市議会が2002（平成14）年度に「議会在り方研究会」を立ち上げてから20年、2006（平成19）年4月には議会議案による飯田市自治基本条例を施行し、2012（平成24）年度に「議会改革推進会議」を設置。その後「飯田市議会 議会改革・運営ビジョン」（以下「議会改革・運営ビジョン」）を策定してから10年が経過した。

この10年で議会改革・運営ビジョンの進行管理を行うことで一定の成果が得られた一方で、議会を取り巻く社会環境の変化が議会活動に反映されていない、議会改革・運営ビジョンの項目が常態化されていない、議会改革の取組の経過や成果が市民に伝わりきれていないなど、議会活動が住民の福祉の向上につながっているかという質的な議論の必要性が生じ、課題が顕在化してきている。

こうした中、「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」の「実装の場」として、議会を組織マネジメントの観点から、議会がもつ役割や権限を発揮して議会の成果を住民福祉の向上につなげていくチャンスを得ることができた。

このたび、飯田市議会では、市民ニーズを踏まえ今日的な課題に対応して地域経営の充実につなげるため、現在の議会活動を「身体検査」して目指すべき到達点を確認し、さらなる改革を進めることを目的として、「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」で策定した「地方議会成熟度評価モデル」^{（注1）}（以下「地方議会評価モデル」）を導入することを決定した。

地方議会評価モデルについては、令和4年度から全議員で本格的に取り組み、「議会プロフィール」^{（注2）}と「成熟度評価」^{（注3）}を作成し、飯田市議会の進むべき方向性を市民にわかりやすく伝えるための「スローガン」、飯田市議会に期待される役割（ミッション）、飯田市議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）を以下のとおり確認してきた。

スローガン

『くらし豊かな いいだの^{あす}未来を 市民とともに』 ～ 市民のしあわせに貢献する議会 ～

議会に期待される役割（ミッション）

- 市民の代表機関として議決の権限を行使し、市民の意思が的確に反映されるように活動します。
- 執行機関の活動を評価・監視することにより、適正な行政運営を確保します。
- 市民の意思を基に、政策を立案・提言していきます。
- 共にまちづくりを進めるため、議会活動への市民参加を推進し、市民に開かれた議会運営を行います。

議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）

- 市民との意見交換の場をもとに、行政評価からの決算と予算の連動及び政策提言などによる飯田市議会の政策サイクルがさらに充実しています。
- 合議体である議会がひとつになり、執行機関と対峙し、切磋琢磨することにより共働して地域経営を行っています。
- さらなる議会力の向上を目指し、議員一人ひとりの力量を高め、研鑽をしています。
- 会議及び委員会等を公開し、議会活動について説明することにより、市民との情報共有を図り、市民に身近な議会になっています。

また、上記ビジョンを実現するために今後取り組むべき課題を明らかにした。飯田市議会の議会プロフィールにおける通任期は 2022(令和4)年から 2028(令和 10)年までの6年間とし、具体的に取り組む活動目標と地方議会評価モデルの進行管理を行うための組織の在り方については、このたび、議員4年任期の折り返しの時期を迎えたことから、次期の議会改革推進会議に申し送ることとした。

今後とも、議会改革においては、議会が執行機関の追認機関から脱却し、連続した議会活動を行うことで、住民福祉の向上が可能になると言える。連続した議会活動を「議会からの政策サイクル」として作動させ、議会活動を進化させていくためには、さらなる地方議会評価モデルの定着と地方議会評価モデルの進行管理が極めて重要であり、今回の市議会における地方議会評価モデルに対する一連の取組が、その重要性を内外に示す機会につながることを期待したい。

(注1)「地方議会成熟度評価モデル」

議会改革を議会活動の最終的な到達点である住民福祉の向上につなげていくこと、議会改革のバージョンアップをはかること、従来の議会評価に見られた課題を克服することを目的として開発されたもの。

住民を起点とする政策立案・提言や議案審査、執行機関の監視活動、議会からの政策サイクルの作動による議会の価値創造プロセスに焦点をあて、機関としての議会を包括的に評価することを目指している。

(注2)「議会プロフィール」

議会が進むべき方向性や議会改革の方策について、1枚のシートで検討を行っていくためのツール。議会が進むべき方向性を「議会が目指す理想的な姿」として明確化し、議会の現状分析、ならびに将来の社会環境の変化を想定しながら、取り組むべき課題や進むべき方向性を導き出していくためのシート。

①基本データ、②議会に期待される役割（ミッション）、③議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）、④現在の姿、⑤今後の議会を取り巻く社会環境の変化、⑥これから取り組むべき課題、⑦通任期（4年間）の活動目標・アクションで構成される。

(注3)「成熟度評価」

議会運営に必要な5つの視点（①戦略プラン②政策サイクル③条件整備④信頼と責任⑤ふり返りと学び）に基づいて、議会の現状分析を行うための枠組

2 地方議会評価モデルの実施に至った背景

(1) 議会改革の取組の経過

飯田市議会における議会改革の取組は、2000（平成12）年に地方分権一括法が施行され、機関委任事務制度の廃止と国の関与の見直しが行われたことで、地方自治体の自主性と自律性が飛躍的に拡大し、最終的な議決権を握る議会の役割が拡大したことに始まる。

上記は、まさに自治の主役が地方に移り、「自己決定と自己責任」による地域経営を求められていることを意味している。

このような状況の中で、飯田市議会では平成14年に「市民に開かれた議会」「活動する議会」への転換を決意し、課題を抽出して新たな議会活動を提案するために「議会在り方研究会」を設置し、現在に至るまで様々な取組を進めてきた。

2002(平成 14)年度から	「議会在り方研究会」の立ち上げ 4つの視点による改革 ①議会は如何に民意をくみ上げていくか ②議会審議をどのように改革するか ③市民に開かれた議会とするためには ④政策立案能力向上のために何をすべきか
2003(平成 15)年度から 2004(平成 16)年度まで	議会議案検討委員会 市民会議の設置の提言
2004(平成 16)年度	「わがまちの憲法を考える市民会議」の設置
2005(平成 17)年度から 2006(平成 18)年度まで	自治基本条例特別委員会の設置
2006(平成 18)年第3回定例会	「飯田市自治基本条例」を可決（平成 19 年 4 月 1 日施行）
2007(平成 19)年度から 2008(平成 20)年度まで	行革検討委員会、議会改革検討委員会、議会議案検討委員会による取組
2008(平成 20)年度	議会による行政評価がスタート
2009(平成 21)年度	議会主催による議会報告会が本格的にスタート
2010(平成 22)年度	議会運営委員会による視察 （会津若松市議会 「議会基本条例をツールとした政策形成サイクルの構築と運用」） 議会報告会を起点とした政策づくりの試行 常任委員会による調査・研究がスタート
2011(平成 23)年度	自治基本条例に規定した議会の役割について、今後の具体的な実現方策を明らかにしていくための「議会制度検討委員会」を設置
2012(平成 24)年度	議会改革推進会議の設置 （検討項目の中で実現した取組） ・議案等の事前公開

	<ul style="list-style-type: none"> ・政策討論会の導入 ・ユーストリームによる配信 ・議長による記者会見の実施 ・委員会における参考人制度の活用 ・法制担当の兼務配置 ・各種団体との懇談
2013(平成 25)年度	<p>(検討項目の中で実現した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員間の自由討議の導入 ・委員会の自由傍聴の実施 ・委員会の複数所属制の見直し ・広報広聴委員会の設置
2014(平成 26)年度	<p>(検討項目の中で実現した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校への出前講座の実施 ・政治倫理に関する内規の制定 <p>(その他の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治基本条例第 6 章「市議会の役割」に関する検証
2015(平成 27)年度	<p>(検討項目の中で実現した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット配信の試行 ・一般質問等におけるパネル使用
2016(平成 28)年度	<p>(検討項目の中で実現した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たかが一般質問、されど一般質問」の作成 <p>(その他の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「議会災害対応指針」の策定
2017(平成 29)年度	<p>(検討項目の中で実現した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の YouTube 配信
2018(平成 30)年度	<p>(その他の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般質問における反問権の導入
2019(平成 31/令和元)年度	<p>(検討項目の中で実現した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会報告・意見交換会への移行 <p>(その他の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算決算委員会の設置
2020(令和 2)年度	<p>(検討項目の中で実現した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会文教委員会における「課題共有型えんたく会議」の実施 ・広聴プロジェクトによる「タウンミーティング」の提案 <p>(その他の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT を推進するための議会・庁内プロジェクトの設置 ・タブレット端末の導入
2021(令和 3)年度	<p>(検討項目の中で実現した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会における「オンライン会議」の導入

	(その他の取組) <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス議会の導入 ・地方議会評価モデルの導入
2022(令和4)年度	(検討項目の中で実現した取組) <ul style="list-style-type: none"> ・タウンミーティングの実施

このほかにも、議員定数の削減、一問一答方式の導入、議会ホームページ開設、インターネットによる会議録の公開など、改革に向けた取組を積み重ねてきている。

(2) 地方議会評価モデルの導入について

飯田市議会は、平成16（2004）年に全国初といわれる議会による諮問機関として市民会議を立ち上げ、自治体の憲法である「飯田市自治基本条例」を議会議案として平成18年に議決し、制定した。

当該条例の第6章に謳われている「市議会の役割」を実現するため、「議会改革・運営ビジョン」の進行管理にあたって議会改革推進会議を常設型とし、今日に至るまで毎年点検作業を行うことで、改革の実現を図ってきたが、ビジョンにおいては常態化ができていない取組項目もあるなど、必ずしも、住民の福祉の向上につながっているとは言い難い。

市民からのニーズを踏まえ今日的な課題に対応して地域経営の充実につなげるためには、議会改革を目的とすることだけではなく、現在の議会活動を「身体検査」と位置付けると同時に、目指すべき到達点を確認し、さらなる改革を進めることが重要であると判断し、前任の正副議長が着手し、申し送りがあった地方議会評価モデルの導入が有効であり、全議員の参画をもって着手することとした。

地方議会評価モデルの取組においては、飯田市議会の現状を自己診断した上で、住民福祉の向上に資する議会の在り方や議会の向かうべき方向性について評価や議論を進めるとともに、これまでの議会改革とは異なり、飯田市議会の理想的な姿（到達点）を、あらためて合議体の組織として明確にできた意義は極めて大きい。

【取組】

公益財団法人日本生産性本部（以下「日本生産性本部」）^(注4) のアドバイスを受けながら、飯田市議会独自の手法による地方議会評価モデルに全議員で取り組む。

（所管：議会改革推進会議）

（注4）「公益財団法人日本生産性本部」

設立：1955年3月1日 本部所在地：東京都千代田区平河町2-13-12

社会経済システムおよび生産性に関する調査研究、情報の収集および提供、普及および啓発、研究会、セミナー等の開催を行うことにより、社会経済システムの解決に資するための国民的な合意形成に努めるとともに、グローバル化に対応した対外活動を展開し、国民経済の生産性の向上を図り、もってわが国経済の発展、国民生活の向上および国際社会への貢献に寄与することを目的とする。

(3) 議会プロフィールと成熟度評価の必要性

地方議会は、地方自治における二代表制の一翼を担う議事機関である。民意の反映を担

う合議制の機関である地方議会が様々な意見や価値観を反映した活動を行うためには、与えられた資源を有効活用して議会活動を充実させる必要があるとされている。

上記の問題意識の下、日本生産性本部では、早稲田大学マニフェスト研究所の協力を得て2016（平成 28）年から「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」（顧問：北川正恭 早稲田大学マニフェスト研究所顧問・早稲田大学名誉教授 座長：江藤俊昭 大正大学社会共生学部教授）を開催し、2019（令和元）年には組織マネジメントの視点を参考にしながら「議会からの政策サイクル」を中心とした議会運営の具体的な評価基準として「地方議会評価モデル」（地方議会の成熟度基準）を構築し、2020（令和2）年に初版として公表した。

飯田市議会は、2002（平成14）年に「議会在り方研究会」を立ち上げてから20年、2012（平成24）年に「議会改革推進会議」を設置してから10年の節目となる、2022（令和4）年に、全議員で地方議会評価モデルに取り組み、議会活動のふり返りと評価を通じた議会改革のバージョンアップに向けて、議会プロフィールの作成と成熟度評価の実施を行うこととした。

3 地方議会評価モデルの取組の経過について

(1) 議会改革推進会議による進行管理

以下の経過をふまえて、2022（令和4）年4月12日付けで開催された議会改革推進会議において組織体制を決定し、当該会議が地方議会評価モデルの進行管理を行った。

【地方議会評価モデルに至るまでの市議会の取組の経過】

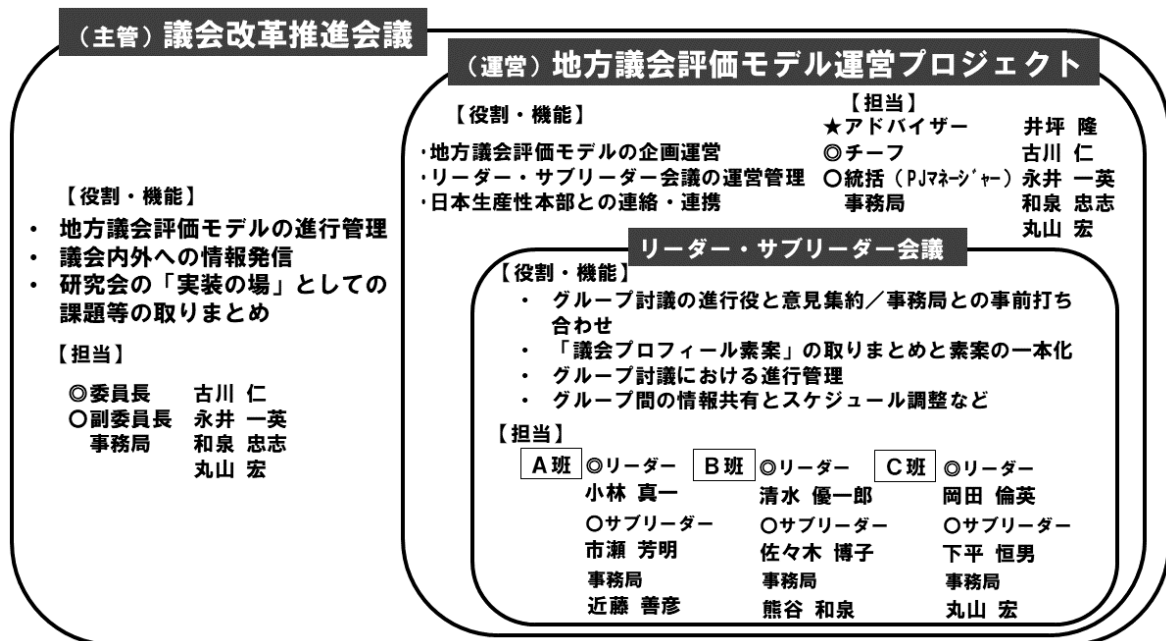
平成28(2016)年度から 令和3(2021)年度まで	「日本のモデルをつくろう！」を合言葉に、日本生産性本部が主催、早稲田大学マニフェスト研究所が共催で「地方議会における研究会」を設置。戦略的な組織経営の手法を活用した「地方議会評価モデル」を構築し、普及を目指した活動を実施。 議会改革バージョンアップのための5つの視点16項目で地方議会を評価するための「成熟度評価」ガイドラインを策定。当該研究会には、この間事務局と正副議長が参加
令和3(2021)年5月	前任の正副議長から井坪議長と山崎副議長に対し地方議会評価モデルに対する研究継続の申し送りを実施
11月25日	日本生産性本部事務局・研究会座長の江藤教授との打ち合わせ (井坪議長 和泉議会事務局長)
令和4(2022)年1月14日	議会運営委員会において、地方議会評価モデルの導入を決定 日本生産性本部事務局と支援体制等についての協議を開始
1月27日	地方議会評価モデルの主管を議会改革推進会議が担当することを決定/今後の進め方・体制等について協議
1月28日	地方議会評価モデルの導入に向けた取組を代表者会で確認
2月1日	全員協議会勉強会において地方議会評価モデルの導入についての協議を実施
2月16日	議会運営委員会において、3グループによる全議員参加を決定

	日本生産性本部事務局と支援体制・スケジュール等を協議
3月23日	議長記者会見にて地方議会評価モデルの導入を報道機関に発表
3月29日	地方議会評価モデルキックオフ講演会（講師：江藤俊昭教授）の開催
4月12日	議会改革推進会議において、組織体制の決定

(2) 地方議会評価モデル運営プロジェクトによる運営

地方議会評価モデルを主管するのは「議会改革推進会議」、運営するのは「地方議会評価モデル運営プロジェクト」とし、アドバイザー、チーフ、統括及び事務局が、地方議会評価モデルの企画運営、リーダー・サブリーダー会議の運営管理、公益財団法人日本生産性本部との連絡調整を行った。

地方議会評価モデルの取組体制



(3) リーダー・サブリーダー会議における取組経過

全議員がABCの3つの班に分かれて、リーダーとサブリーダーが主催して各班でグループ討議を行い、その結果をリーダー・サブリーダー会議に持ち寄る方法を採用した。リーダー・サブリーダー会議で各班の論点を横断的に議論することで、全議員の合意形成に向けて建設的な議論を進めた。

構成（人選）にあたっては議長マターでこれを行い、リーダー、サブリーダーには2期議員、1期議員を選任し、議会改革推進会議にて決定した。

リーダー・サブリーダー会議の構成			
	A班	B班	C班
◎リーダー	小林 真一	清水 優一郎	岡田 倫英
○サブリーダー	市瀬 芳明	佐々木 博子	下平 恒男
メンバー	小平 彰	西森 六三	橋爪 重人
	関島 百合	筒井 誠逸	宮脇 邦彦
	福澤 克憲	竹村 圭史	古川 仁
	木下 徳康	山崎 昌伸	熊谷 泰人
	清水 勇	永井 一英	新井 信一郎
	井坪 隆		原 和世
事務局	近藤 善彦	熊谷 和泉	丸山 宏

リーダー・サブリーダー会議の開催経過

第1回 令和4年4月14日 (13:30-16:50)	日本生産性本部事務局からの説明 日本生産性本部事務局との打ち合わせにより支援に係る双方の経費について協議
第2回 6月3日 (13:00-14:48)	「議会プロフィール」の「1. 議会に期待される役割(ミッション)」と「2. 議会が実現すべき理想的な姿(ビジョン)」についての認識を確認し、グループ討議を進める上での懸案事項を整理
第3回 6月27日 (13:30-17:10)	各班でのグループ討議をふまえて、議会プロフィールの項目3及び4について論点を整理した資料を基に議論を行い、集約を実施
第4回 7月19日 (13:30-17:07)	各班でのグループ討議をふまえて、議会プロフィールの項目1及び2について論点を整理した資料を基に議論を行い、集約を実施
第5回 8月4日 (13:30-14:40)	議会プロフィールの1及び2のグループ討議での確認方法、項目5及び6についての集約の方法を確認
第6回 9月22日 (13:30-17:07)	議会プロフィールの1についての各班からの意見をまとめ、ミッションとしてのキャッチフレーズについての検討を実施
第7回 9月29日 (13:30-16:00)	第6回リーダー・サブリーダー会議及び第2階リーダー会議の結果をふまえて、議会プロフィールの「1. 議会に期待される役割(ミッション)」と「2. 議会が実現すべき理想的な姿(ビジョン)」の論点整理を実施 「地方議会評価モデル」のテキストにはない『スローガン』の設定

	の必要性を議論（４（１）を参照）
第 8 回 10 月 5 日 (13:30-16:30)	議会プロフィールの「２．議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）」及び「５．これから取り組むべき課題」の論点整理を実施 飯田市議会のスローガンとして、以下を掲げることを確認 『くらし豊かな いいだの ^{あす} 未来を 市民とともに実現する議会』 ～市民のしあわせに貢献するために、市民の代表として、健全な行政運営をまもり、いいだの豊かさと ^{あす} 未来を市民とともに創ります～
第 9 回 11 月 8 日 (13:00-16:45)	議会プロフィールのミッション、ビジョン、スローガンの内容を確認。リーダー・サブリーダー会議からの案を作成し、成熟度評価オリエンテーションの際に内容を確認することとした。
第 10 回 11 月 19 日 (10:00-11:30)	議会プロフィールのミッション、ビジョン及びスローガンを各班へ持ち帰って報告した内容と議員からの反応について、各リーダーからの報告を実施 日本生産性本部から、「地方議会成熟度評価モデルガイドブック」に基づき、議会活動の評価の枠組み、評価の尺度等についての説明を受け、成熟度評価のワークシートの内容とスケジュールを確認
第 11 回 令和 5 年 1 月 10 日 (13:30-17:15)	全議員から提出があった成熟度評価ワークシートの集計結果を確認 各班ごとの傾向を整理し、グループ討議の進め方の目合わせを実施
第 12 回 1 月 30 日 (13:30-17:00)	成熟度評価について、各班がグループ討議を経てまとめた内容を確認 視点 2 の項目「④住民との対話」から視点 4 の「⑩情報公開と説明責任」まで（⑪法令等遵守を除く）の、現状における評価の理由と根拠、課題及び具体的な取組事項を整理
第 13 回 2 月 1 日 (13:00-16:50)	成熟度評価について、各班がグループ討議を経てまとめた内容を確認 視点 4 の「⑪法令等遵守を除く）、視点 1 及び視点 5 の現状における評価の理由と根拠、課題及び具体的な取組事項を整理
第 14 回 2 月 15 日 (13:00-14:57)	第 1 回全体会及び江藤教授との懇談会をふまえて、議会プロフィール 1 から 5 までの修正の要否を確認し、今後の進行管理についての情報を共有
第 15 回 3 月 14 日 (12:00-12:45)	『「運営 P J」から実践へ～ 地方議会評価モデルの成果をつなぐ～』の資料を基に、今後の進行管理について協議
第 16 回 3 月 24 日 (13:30-16:10)	『「運営 P J」から実践へ～ 地方議会評価モデルの成果をつなぐ～』の資料を基に、今後の進行管理について、各会派から出された論点、意見等について協議
第 17 回 3 月 30 日	今後の進行管理、議会プロフィール「５．これから取り組むべき課題」と成熟度評価に基づく具体的な取組事項、地方議会評価モデルの全

(9:30-10:15)	体を通じての気づき、実施報告書(案)、広報等について協議
--------------	------------------------------

リーダー・サブリーダー会議の議論を経ても一定の結論に至らない場合は、リーダー会議を開催し、運営プロジェクトのメンバーと意見交換を行うことで、各班の足並みと方向性を揃えつつ議論を進めた。

リーダー会議の開催経過

第1回 令和4年5月24日 (14:30-15:14)	議会プロフィールの「1. 議会に期待される役割(ミッション)」と「議会が実現すべき理想的な姿(ビジョン)」についての認識を確認 グループ討議を進める上での懸案事項を整理
第2回 9月28日 (13:00-14:00)	議会プロフィールの「1. 議会に期待される役割(ミッション)」についての各班からの意見の目合わせとキャッチフレーズについての検討を実施
第3回 10月21日 (10:00-11:45)	議会プロフィールのスローガンと「2. 議会が実現すべき理想的な姿(ビジョン)」のリーダー・サブリーダー会議での検討経過について振り返り、各班のグループ討議での説明方法についての目合わせを実施
第4回 11月7日 (15:00-15:50)	各班のグループ討議の結果を持ち寄り、議会プロフィールのミッション、ビジョン、スローガンの内容を確認

(4) グループ討議の開催経過

地方議会評価モデル運営プロジェクトが示した方針に基づき、リーダーとサブリーダーが主催して、以下のとおり各班でグループ討議を開催した。

令和4年4月	地方議会評価モデルの議会プロフィールと成熟度評価についてのオリエンテーションを実施 A班1回 B班1回 C班1回
5月	各班のメンバーが提出した、議会プロフィールの内容を確認しながら、項目ごとに論点となるポイントの抽出と整理を実施 A班2回 B班1回 C班1回
6～8月	リーダー・サブリーダー会議で確認した共通認識を基に、議会プロフィールの「1. 議会に期待される役割(ミッション)」と「2. 議会が実現すべき理想的な姿(ビジョン)」について協議し、「3. 現在の姿」以降の項目について、グループごとに意見集約を実施 A班3回 B班4回 C班3回
10月	飯田市議会として新たに掲げることとした「スローガン」を含めて、リーダー・サブリーダー会議で集約した議会プロフィール(案)を各班に持ち帰り、メンバーからの意見聴取を実施 A班1回 B班1回 C班1回
11月	日本生産性本部同席の下、成熟度評価に係るオリエンテーションを実施

	A班1回 B班1回 C班1回
令和5年1月	リーダー・サブリーダー会議で実施した目合わせを基に、全議員から提出があった成熟度評価ワークシートの集計結果の共有と、各班ごとの意見集約を実施
	A班1回 B班1回 C班1回

(5) 大正大学江藤教授との意見交換会の実施

大正大学社会共生学部公共政策学科の江藤俊昭教授を招いて、地方議会評価モデルの進捗状況を確認し、議会プロフィールと成熟度評価の進行管理について適宜ご助言をいただいた。

第1回 令和4年10月8日 (10:00-11:41)	江藤教授に飯田市議会の進捗状況を説明し、現時点での議会プロフィールの内容についてアドバイスをいただいた。また、リーダーとサブリーダーが各班でグループ討議を行うにあたって疑問を抱いた点や今後の進め方で不安な点についての質疑応答を実施した。
第2回 令和5年2月14日 (16:00-17:48)	主に「議会プロフィール5」についてのアドバイス、不足している項目及び追加項目等の指摘、課題等を解決するための手段、地方議会評価モデルの進行管理の在り方などについて懇談

(6) 全体会の開催

地方議会評価モデルの組織体制、取組の経過、リーダー・サブリーダー会議の議論を踏まえてまとめた内容を全議員に示し、評価モデルの最終的な完成に向けて次のステップに進めるために全体会を開催した。

令和5年2月8日 (13:30-15:27)	リーダーから全議員に対し「議会プロフィール」(1から5まで)の説明及び成熟度評価の集約結果を報告し、これから取り組むべき課題などの今後の進め方に係る情報共有を実施
---------------------------	---

4 取組結果について

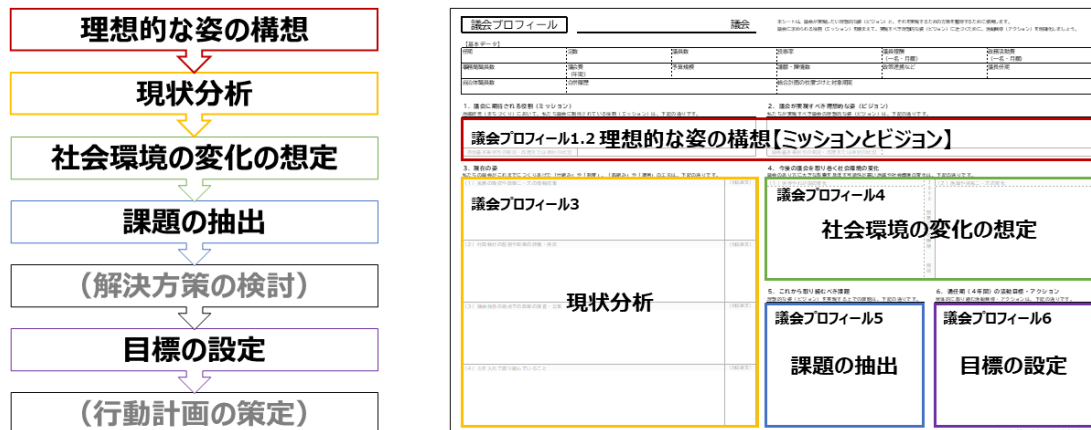
(1) 議会プロフィールの作成

議会プロフィールは、議会が進むべき方向性や議会改革の方策について、1枚のシートで検討を行っていくためのツールであり、議会が進むべき方向性を「議会が目指す理想的な姿」として明確化し、議会の現状分析、ならびに将来の社会環境の変化を想定しながら、取り組むべき課題や進むべき方向性を導き出していくための仕組みである。

①基本データ、②議会に期待される役割(ミッション)、③議会が実現すべき理想的な姿(ビジョン)、④現在の姿、⑤今後の議会を取り巻く社会環境の変化、⑥これから取り組むべき課題、⑦通任期(4年間)の活動目標・アクションで構成される。

地方議会評価モデルの仕組み ①「議会プロフィール」の取組
「自らの議会がどのような議会か」共通認識を得る

➤「理想的な姿」(ビジョン) から逆算して、今後の行動 (アクション) を1枚のシートで考える。



飯田市議会では、全議員が作成した議会プロフィールを基に、各班ごとに意見集約を行い、リーダー・サブリーダー会議での論点整理と各班へのフィードバックを繰り返し、議会プロフィールの1から5までを以下のとおり整理した。

なお、当初の想定にはなかったが、リーダー・サブリーダー会議で議会プロフィールのミッションとビジョンについての議論を積み重ねる中で、飯田市議会の進むべき方向性を市民にわかりやすく伝えられるよう「スローガン」という概念を生み出し、全体会での全議員の確認を経て、議会プロフィールに掲載することとなった。

スローガン

『くらし豊かな ^{あす}いいだの未来を 市民とともに』～ 市民のしあわせに貢献する議会 ～

1. 議会に期待される役割 (ミッション) 【議会プロフィール1】

地域経営 (まちづくり) において、私たち議会に期待されている役割 (ミッション) は、下記の通りです。

- 市民の代表機関として議決の権限を行使し、市民の意思が的確に反映されるように活動します。
- 執行機関の活動を評価・監視することにより、適正な行政運営を確保します。
- 市民の意思を基に、政策を立案・提言していきます。
- 共にまちづくりを進めるため、議会活動への市民参加を推進し、市民に開かれた議会運営を行います。

2. 議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）【議会プロフィール2】

地域経営（まちづくり）において、私たち議会に期待されている役割（ミッション）は、下記の通りです。

- 市民との意見交換の場をもとに、行政評価からの決算と予算の連動及び政策提言などによる飯田市議会の政策サイクルがさらに充実しています。
- 合議体である議会がひとつになり、執行機関と対峙し、切磋琢磨することにより共働して地域経営を行っています。
- さらなる議会力の向上を目指し、議員一人ひとりの力量を高め、研鑽をしています。
- 会議及び委員会等を公開し、議会活動について説明することにより、市民との情報共有を図り、市民に身近な議会になっています。

3. 現在の姿【議会プロフィール3】

私たちの議会がこれまでに作りあげた「仕組み」や「制度」、「取組」や「運用」の工夫は、下記の通りです。

(1) 民意の吸収や政策ニーズの情報収集

【今までの取組で生かすべき点】

- ・ 全議員で課題に取り組む風土
- ・ 各種団体との懇談会の実施⇒委員会対応 or 執行部へ伝達
- ・ 出前講座（小中学校と議会の意見交換会、有権者教育）の継続
- ・ 「わがまちの憲法を考える市民会議」公募を含めた市民と議会と協働して平成19年に制定した自治基本条例は市民参加型のプロセスこそ継承されるべき。
- ・ 開かれた議会運営 youtube・ICTVによる映像配信
- ・ 議会報告・意見交換会の開催⇒市民との意見交換⇒政策提言へつなげる。
- ・ ブロック別に行う議会報告・意見交換会
- ・ アンケート調査
- ・ タウンミーティングの開催計画
- ・ 個々の議員活動

【課題・解決すべき点】

- ・ 受け継がれた風土を具体的に実行していく不断の取組
- ・ 限られた財源の中で、いかに住民の意見やニーズを政策サイクルにのせていくか。
- ・ 請願・陳情の積極的な活用を推進するとされているがなかなか進んでいないため、活用しやすいよう手順等の確認が必要。
- ・ 参加者の属性に偏りがあり、広く市民の声を聴けていない。
⇒ コロナ禍で(補完目的の)タウンミーティングの未実施
- ・ 令和2年度全員協議会にて確認した「公聴に関する検討報告書」を受けての新たな

(2) 行政執行の監視や政策の評価・検証

【今までの取組で生かすべき点】

- ・ 基本構想・総合計画および政策施策の策定や変更を議決事項として実施状況の報告を義務付けしている。
- ・ 「いいだ未来デザイン 2028」の実施に向けた行政評価
- ・ 議会の政策サイクルとしての、行政評価からの政策提言と予算提言
- ・ 予算決算委員会における予算決算審議の実施

【課題・解決すべき点】

- ・ 予算決算委員会準備会がまだ機能を果たし切れていない。
- ・ 政策サイクルに組み込まれた行政評価を実施中であり、決算審査・予算審議へ連動させている。
- ・ 提言後の振り返り、検証が不十分。
- ・ 行政評価からの政策提言、予算提言につなげていくための過程（時間的な制約や各委員会との均衡）
- ・ 行政評価及び決算審査を予算提言にいかに関結び付けることができるか。
- ・ 予算決算委員会準備会の充実(全議員の共有化を図るとともに、論点を明確化する作業への工夫と、政策提言を前提とした審査の実行)
- ・ 予算提言に至らない場合が多く、決算審査を予算審査に生かすという「議会の政策サイクル」が機能しているとは言い難い。

(3) 議会独自の視点での政策の調査・立案

【今までの取組で生かすべき点】

- ・ 予算決算委員会の設置により、予算提言まで連動する新たな政策サイクルの基礎が構築された。
- ・ 任期ごとに設定するテーマに基づく常任委員会の調査研究と政策提言
- ・ 視察目的を明確化した、管外・管内視察
- ・ 大学教授の知見の取り入れ
- ・ 政務調査報告会は、24年度調査費から、一般公開で行い、市職員に周知し、市民向けに議会ホームページに掲載している。
- ・ 議員・会派による市民益につながる政策提言
- ・ 議員個々の専門性の追求

【課題・解決すべき点】

- ・ 政策サイクルにおけるタウンミーティングの実施と定着
- ・ 政策サイクルバージョンアップのための委員会代表質問などの検討

- ・ 常任委員会活動の質的向上が継続的に図られているか。
- ・ 財政分野などへ幅広く活用を実施
- ・ 議案審査において、会派とさらには委員会で論点整理する仕組み
- ・ 議員力と議会としての質問力アップのための「たかが一般質問、されど一般質問」をどう生かすか。

(4) 力を入れて取り組んでいること

【今までの取組で生かすべき点】

- ・ 通年議会相当の議会活動を実施
- ・ 議員間自由討議の実施（条例などに基づくものと行政評価などにおいて実施）
- ・ インターネットによる本会議・委員会の映像配信
- ・ 議会報告・意見交換会における質問や提言に対し、年内に回答、年度内に回答、委員会の調査研究活動の中で検討していくなど、区分を明確化し回答・公開をした。
- ・ 事務局体制の強化と法制担当者の配置について、議長が市側に申し入れる。
- ・ 議会BCPの具現化
- ・ 議会運営委員会では各定例会後に反省会を行い、委員会、会派から意見を出してもらい取り組んでいる。
- ・ 会派による調査研究
- ・ 委員長会の開催頻度を高め、委員会審議の在り方についても反省し、次に生かす。
- ・ 議員個人の課題提起（一般質問等）を複数議員、委員会の活動に発展
※ 一般質問を起点に学校トイレを改善した例。質問・質疑をサイクルに生かす取組
- ・ 議長諮問による議会の在り方等の研究

【課題・解決すべき点】

- ・ 自由討議について積極的に行うべきであるが、議論を深めるための課題認識、課題共有が出来ているか。
- ・ 市民からの意見要望について議員間討議ができていない。
- ・ 会派では議員間自由討議が日常的にされているが、委員会での議員間討議は実例がまだ少ない。
- ・ ホームページでの公開でどの程度周知されているのか。
- ・ 情報発信することで市民の関心を高め、意見を出してもらうサイクルの検討
- ・ 事務局体制の強化（人員・スキル）
- ・ 政治倫理をテーマとした議員研修
- ・ 「機関としての議会」という視点においては、第26条「政策の調査、審議のための機関」とは別モノと考える「機関としての議会」とは具体的にどのようなモノか明確にしていく必要があるのではないかと（第22条の内容で良いか）。
- ・ 追認機関と言われたいよう、政策立案により二元代表制としての役割を果たす
- ・ 議長諮問による議会の在り方等の研究

- ・ 「自治の文化」(江藤教授談)を市民にも受け止めてほしい。
- ・ 飯田市自治基本条例を市民と共に見つめていく。

4. 今後の議会を取り巻く社会環境の変化【議会プロフィール4】

議会の在り方に大きな影響を及ぼす可能性が高い地域や社会環境の変化は、下記の通りです。

(1) 世界や我が国の変化

- ・ コロナの影響により、価値観が変化する。
- ・ コロナが終息し、新しい経済活動、人の流れの姿が構築される。
- ・ ロシアのウクライナへの侵攻・紛争による影響が続く。
- ・ 異常気象による自然災害が激甚化する。
- ・ デジタル社会、ソサエティ 5.0 時代へ移行する。
- ・ SDGs の推進がさらに広がる。
- ・ 人口減少、少子高齢化がさらに進む。
- ・ リニア及び三遠南信道路が開通する。
- ・ コロナ禍を機に大都市圏集中から地方分散が進む。
- ・ 地域共生社会の実現が求められる。
- ・ 人口減少により労働力や税収が減少する。
- ・ ジェンダー平等の推進が広がる。
- ・ 社会の分断の顕在化が懸念される。
- ・ 生活困窮者の増加と貧富の格差の拡大が進んでいる。

(2) 地域や住民ニーズの変化

- ・ 人口減少・少子高齢化がさらに進む。
- ・ 人の流れをどう創るかが、より具体的に求められる。
- ・ リニア及び三遠南信道路開通により交流人口が増加する。
- ・ 持続可能な地域公共交通が引き続き課題である。
- ・ 地域の役員のなり手不足により、地域自治組織の継続が困難になる。
- ・ 空き家対策が引き続き課題である。
- ・ 公共施設の複合化を含む再編成や公共施設の整備が必要となる。
- ・ 住民ニーズの多様化、個別化が拡大する。
- ・ 地域国際化や多文化共生が広がる。
- ・ 子育て環境の充実と子どもの居場所づくりが課題となる。
- ・ 地域内経済循環構築による地域全体の活性化が必要となる。
- ・ 中小企業・事業者支援が一層重要になっている。
- ・ 農林水産業の担い手不足への対応が必要になる。
- ・ 議会に対する期待感が変化する。

5. これから取り組むべき課題【議会プロフィール5】

理想的な姿（ビジョン）を実現する上での課題は、下記の通りです。

項目	議会プロフィール 「5. これから取り組むべき課題」	議会プロフィール 「3. 現在の姿」【課題・解決すべき点】	成熟度評価に基づく課題	成熟度評価に基づく具体的な取組事項
①理想的な姿の構想	○全議員で決定したスローガン、ミッション、ビジョンの議会全体への反映	<ul style="list-style-type: none"> ・「機関としての議会」という視点においては、第26条「政策の調査、審議のための機関」とは別モノと考える。「機関としての議会」とは具体的にどのようなモノか明確にしていく必要があるのではないか(第22条の内容で良いか) ・議長諮問による議会の在り方等の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営ビジョン作成から10年が経過し、当時の議員も少なくなり、ここ数年は運営ビジョンの内容を議会全体で確認できていなかった。 ・今回、議会プロフィール作成にあたり再確認し、議会全体のものとする必要がある。 	
	○議会の理想的な姿を実現していくための継続的に取り組んでいく仕組みづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・今後、理想的な姿、構想を実現していくための、更なる政策課題の明確化、課題解決の具現化が必要となる。そのため、継続して取り組んでいく仕組みが必要であり、スタートラインに立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議会改革推進会議の運営の在り方を再検討する必要もある。 ・実現に向けた具体的な進行計画策定と継続的な取組となる仕組みの構築に向け、必要があるならば、飯田市議会独自の条例制定も視野に制度化を目指す。

<p>②課題の明確化</p>	<p>○収集された情報を様々な観点から分析し、政策提言・政策立案や議会改革のテーマへとつなげていくためのプロセスや仕組みの構築、あるいは既存の仕組みの改善</p>	<p>・飯田市自治基本条例を市民と共に見つけていく</p>	<p>・平成30年までは各常任委員会でも検討項目について確認してきたが、その後の取組を議会全体で確認してこなかった。課題の継続的な見直しが行われていない。</p>	<p>・常任委員会、及び各種委員会において、年度当初（委員会の構成直後）に、委員会の活動計画、政策課題の把握と、これに基づく所管事務調査の在り方を協議し、委員会として活動の方向性を決める作業が求められる。</p> <p>・常任委員会の強化</p> <p>①常任委員会の運営について、委員会発足の段階で議員間で議論を実施、どのような運営でどのような課題に取り組むか全委員での共有化をそれぞれの委員会で実施</p> <p>②個人の課題摘出ではなく、委員会としての政務調査にテーマを掲げ、しっかりと実施する</p>
<p>③課題解決の具現化</p>	<p>○飯田市議会の「理想的な姿」を実現するため、体系的かつ具体的な目標や、目標達成のための継続性を持った計画づくり</p>	<p>・追認機関と言われたいよう、政策立案により二元代表制としての役割を果たす</p>	<p>・「議会プロフィール」を作成する中でまとまった飯田市議会の「理想的な姿」を実現するための、体系的かつ具体的な目標や目標達成のための計画づくり</p>	<p>・議員間討議を通じた、全議員参加型（全議員＋議会事務局職員）のアクションプランの策定にあたっては、PDCAサイクルのCとAを意識し、優先順位を明確にする。</p> <p>・「常任委員会における所管事務調査ガイドライン(案)」の検討を進めると共に、「言いつばなし、や</p>

			・(議会改革について) 運営ビジョンの進捗状況 を全体で再確認する。	りっ放し」とならないような取 組み方についての研究を進める。
	○飯田市自治基本条例「第6章市 議会の役割」の検討			・評価モデルの取組から明らかと なった議会像の実現、課題と解決 への、今後の取組にあたって、そ の“寄って立つ柱”が求められる。 現行の自治基本条例の「第6章 市議会の役割」では不足するため、 これを機会に充実する必要がある。
④住民との 対話	○議会報告・意見交換会の在り方 を見つめ直すとともに、政策サイ クルにおけるタウンミーティング の実施と定着	・受け継がれた風土を具体的に実行し ていく不断の取組 ・参加者の属性に偏りがあり、広く市 民の声を聴けていない⇒ コロナ禍で (補完目的の)タウンミーティングの未 実施 ・令和2年度全員協議会にて確認した 「広聴に関する検討報告書」を受けて の新たな事業展開 ・政策サイクルにおけるタウンミーテ ィングの実施と定着	・議会報告・意見交換会 の在り方は従来のみで 良いのか、まだほかに方 法がないのかを考えるこ とから始める。理想とす る姿は何か、その手法は 何かを学ぶことも見つめ 直す。	・政策サイクルの中にタウンミー ティングの定着化

	○市民との対話、市民からの考えを聞くことについての学び直し		・ 普段の議会活動の中に、市民との対話の機会や市民の意見をどう取り入れるか。	・ 個人の質問力、傾聴力の向上 → ①ファシリテーション能力の向上 ②ミーティングの持ち方の研究 ・ 住民との対話、住民からの考えを聞くことについて初心に戻り、学び直しから取り組んでいく。知見のある方をお願いすることも必要。
⑤議員間の討議	○現制度である議案に対する議員間討議の周知と、改善点の洗い出し	・ 市民からの意見要望について議員間討議ができていない ・ 会派では議員間自由討議が日常的にされているが、委員会での議員間討議は実例がまだ少ない	・ 効果的な運用を行うため、委員長会での周知、研究・現制度である議案に対する議員間討議の仕組みと、行政評価などを行う際に実施している議員間討議の違いを整理し、改善点を明らかにすること	・ 委員長会及び全議員への、今ある制度の周知
	○議員間討議を行うための論点を明確にする仕組みづくり	・ 自由討議について積極的に行うべきであるが、議論を深めるための課題認識、課題共有が出来ているか	・ 議員間討議を行うための、論点を明確にする仕組みづくり	・ 論点抽出票の活用 ・ 論点整理のスキルアップ ・ 議論のトレーニング

⑥ 政策立案・提言、議案審査	○政策サイクルを回し、バージョンアップするための課題整理と対策	<ul style="list-style-type: none"> ・政策サイクルバージョンアップのための委員会代表質問などの検討 ・常任委員会活動の質的向上が継続的に図られているか ・財政分野などへ幅広く活用を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・政策立案と提言は、持ち寄って審議する仕組みと場が必要 ・一般質問、代表質問を会派間で共有し、重要課題については議会全体で取り組む体制づくりが必要 	
	○議案審査などにおいて、会派や委員会で論点整理する仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・請願・陳情の積極的な活用を推進するとされているがなかなか進んでいないため、活用しやすいよう手順等の確認が必要 ・議案審査において、会派とさらには委員会で論点整理する仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・論点抽出票の活用と論点整理のスキルアップ ・執行機関とは異なる議会ならではの視点を吸い上げる仕組みの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・「論点抽出票」の活用 ・会派、委員会を超えた「議会として」の意思表示
⑦ 総合計画、政策評価、予算・決算の連動	○予算提言を行なうための予算決算委員会の機能向上	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた財源の中で、いかに住民の意見やニーズを政策サイクルにのせていくか ・予算決算委員会準備会がまだ機能を果たし切れていない ・予算決算委員会準備会の充実(全議員の共有化を図るとともに、論点を明確化する作業への工夫と、政策提言を前提とした審査の実行) ・政策サイクルに組み込まれた行政評価を実施中であり、決算審査・予算審 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算決算委員会の機能向上 ・予算決算委員会準備会での議論がまだ不十分で、当初考えていた機能が発揮できていない。 ・また行政評価から見えてきた課題について、予算の増額・減額などの裏付けとなる調査研究が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算決算委員会準備会について、設立当初の目的とした「予算提案を伴った提案」が出来るようにする機能強化 ・申し合わせ任期・改選による委員交代があったとしても、いかに追っていくことができるサイクルを再度構築

		<p>議へ連動させている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政評価からの政策提言、予算提言につなげていくための過程（時間的な制約や各委員会との均衡） ・行政評価及び決算審査を予算提言にいかに関結び付けることができるか ・予算提言に至らない場合が多く、決算審査を予算審査に生かすという「議会の政策サイクル」が機能しているとは言い難い 	<ul style="list-style-type: none"> ・政策提言、予算提言が次年度の予算に反映され、確かに実施されているかを、年度を跨いで確認する仕組みの構築 	
	○提言後の振り返りと検証を十分に行うことができる仕組み	・提言後の振り返り、検証が不十分	・「言いつばなし、やりっ放し」にしないという意識づけと仕組みづくり	・政策提言、議会報告・意見交換会からの申し送り事項への振り返りが不足している。
⑧能力向上	○議会の理想的な姿の実現に向けた、議会人として必要な能力の明確化と計画的な能力伸長のための仕組み	・議員力と議会としての質問力アップのための「たかが一般質問、されど一般質問」をどう生かすか	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン実現に向かい、議員及び事務局は理想的な姿を設定し、個々にどのような能力を求められるか必要なスキルの明確化や計画的に継続する仕組みづくり ・議会としての仕組みや制度、地方自治法など実務的な研修の機会を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修については計画的なプログラム、スケジュールを議会改革推進会議などで検討し、示していく必要がある（成功例として「たかが一般質問、されど一般質問」） ・議会、及び会派の政務調査を活用した、専門家による講習会、研修会、勉強会の開催 ・委員会等論点の整理や論点抽出の向上。 ・一般質問における質、質問力や技術の向上

			<ul style="list-style-type: none"> ・ 政策を議会で共有するための「政策研究能力」が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制度の勉強や理解 ・ 市民の声を活かすための各能力向上 ①聞く、②対話する、③気づく、④発想する、⑤まとめる、⑥提言する
	○「チーム飯田市議会」として事務局職員の能力向上		<ul style="list-style-type: none"> ・ 議員だけの能力向上ではなく、「チーム飯田市議会」として事務局職員の能力向上も必要である。 ・ 事務局の体制への課題と、政策に必要な情報の提供など十分な機能を果たしているとは言い難い 	
⑨体制づくりと活動基盤整備	○体制や運営の制度面における課題の洗い出しと改善		<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討員会等の体制づくり、運営方針の見直しが必要。 	
	○飯田市議会の各種制度や活動の目的及び趣旨の全議員における共有化		<ul style="list-style-type: none"> ・ 全議員で共有して取り組むためにも、改めて体制や運営の制度面における課題の洗い出しと飯田市議会の各種制度や活動の目的及び趣旨を全議員で共有する。 	

	○事務局体制の充実、強化	・事務局体制の強化（人員・スキル）	・事務局職員の負担が大きくなっており、増員も含め事務局体制の拡充が必要。	・議会の専門性や調査研究に必要な情報提供のための議会事務局スキルアップと体制強化
⑩内部資源と外部連携の活用	○所管事務調査などにおける専門的知見の活用		<ul style="list-style-type: none"> ・外部連携から得られる知見の獲得は議会にとって有効との認識を議会の共通認識し、外部資源の活用を調査研究や情報収集等のための仕組みの一つとしての位置づけ ・分野別に外部知見から協力が得られる関係を構築していくことまでできていない。 ・議会内の人的資源の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的知見の習得、蓄積を目指して、例えば「飯田市議会アドバイザー設置要綱」を作成し、学識経験者等の複数名を選任する。 ・所管事務調査を進める際に、専門家を講師に迎えて勉強会を開催するなどの意識を高める必要がある。 ・監査報告書を注視することを手始めに、監査委員との連動を進める
	○ICTの更なる活用の検討		<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化には貢献しているが、議員の調査研究を深めるための汎用性の向上について指摘があった ・ハード的な問題（データ容量）など課題がある。 	・オンライン審議における課題の把握と対応策の検討を実施する必要がある。

⑪法令等遵守	○法令やコンプライアンスを遵守する重要性と公人としての高い倫理観を全議員が認識するための計画的、かつ継続的な研修のあり方を研究	<ul style="list-style-type: none"> ・政治倫理をテーマとした議員研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に見て議員の行動に疑問を持つことも増えてきた、時代に合わせた対応も必要である ・飯田市自治基本条例第25条、「市議会議員の責務や飯田市議会議員の政治倫理に関する内規」など、法令やコンプライアンスを遵守する重要性と公人としての高い倫理観を全議員が認識するための計画的、かつ継続的な研修のあり方の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・条例を作ることがすべてではなく、政治倫理について条例を含め、考え方などを議論することが大事であり、議論することで、政治倫理が高まることも想定される（先ずは議論が必要である） ・外部講師による研修会や勉強会 ・継続的、計画的な研修の在り方
⑫情報公開と説明責任	○議会活動の広報が不十分、かつ広報のツール不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでの公開でどの程度周知されているのか ・情報発信することで市民の関心を高め、意見を出してもらおうサイクルの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・会派別や議員別の賛否態度の公開についての議論が必要 ・双方向の取組にはなっておらず、何をすれば住民との双方向となるのか。デジタル化も含めた課題検討が必要になってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会協議会の YouTube 配信などの検討。 ・WEB や SNS 等、情報を発信する媒体を含めた、広報のあり方の検討

⑬危機管理	○議会BCPの磨き上げ		<ul style="list-style-type: none"> ・訓練量が足りていない。 ・議会BCPは作成したばかりで、議会全体の認識とする必要がある。 ・「危機」は捉える範囲が広い。議会の機能を維持するためなにをどこまで決めるのかは検討の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機において把握した地域等の情報を集約し、執行機関に提言する役割をになう体制づくりが求められる。 ・本会議のオンライン開催についての検討
	○有事の際、地域の復旧・復興に関する政策提言機能の発揮に関する検討		<ul style="list-style-type: none"> ・議会としての防災活動、防災体制、有事の際の救援から復興までのしくみづくりを今後進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の復旧・復興に関する政策提言機能の発揮に関する検討
⑭主権者教育と選挙の充実	○主権者教育と主権者意識の醸成に対する基本的な考え方の整理と具体策	・「自治の文化」(江藤教授談)を市民にも受け止めてほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・主権者教育と主権者意識の醸成を議会としてどう考えるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の参画を得た議会をリアルに学ぶ仕組みを、主権者教育のカリキュラムとして議会が構築してはどうか。 ・常任委員会、全協など、議会運営の現場に高校生が参画できる糸口を研究する。 ・出前講座の今後のあり方の検討 ・タウンミーティングの積み重ね ・主権者教育と主権者意識の醸成

				<p>を議会としてどう考えるか、議会全体での理解と認識を深めるための勉強会や研修が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的な事例の調査と地域の研究は続けていく必要がある。 ・「議会が行う主権者教育の姿」「投票率の向上に結びつく主権者教育」は先進事例等の研究から始めて行く必要がある。
⑮ふり返りの取り組み方	○取組のサイクルの中に「振り返り」を位置づけ、次のアクションに繋げていく仕組みづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りの結果の公表は行われていないし、どこまで公表する必要があるかは議論の余地がある。 ・それぞれのサイクルの中に「振り返り」を位置づけ、次のアクションに繋げていくことが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方議会評価モデルの具体的な手法を議会として検討することが必要(振り返りのやり方) ・活動計画やスケジュール策定時に、振り返り(チェック)の項目を予め加えておくこと。 ・3 常任委員会における定例会後の反省会

<p>⑩ふり返りの結果の活用</p>	<p>○次の任期においても、継続して取り組むことが出来る制度</p>		<p>・議会全体の振り返りと活用</p>	<p>・申し送り事項を一覧表にし、全議員が常に状況を把握できる状態にする。 ・取組の活発な委員会等を参考に議会全体の取組にしていくことと、次の任期にも継続して取り組むことが出来るよう仕組化・制度化する。</p>
	<p>○地方議会評価モデルの進行管理のあり方検討</p>		<p>・議会評価モデルにしっかりと取り組むことが大事であり、スタートラインに立ったところであり、ビジョンやミッションを達成するためには「こういった課題がある」として、課題のバージョンアップが必要。</p>	

6. 通任期（2＋4年間）の活動目標・アクション

これから取り組むべき課題について、具体的に取り組む活動目標とアクションについては、次期の議会改革推進会議に申し送ることとする。

(2) 成熟度評価の実施

事前に公益財団法人日本生産性本部からのオリエンテーションを受けた上で、「成熟度評価における議会運営に必要な5つの視点」(下図参照)を基に、全議員が議員個人で成熟度評価のワークシートを作成した。また、提出されたワークシートの全体をリーダー・サブリーダー会議で確認し、各班でグループ討議を実施した。

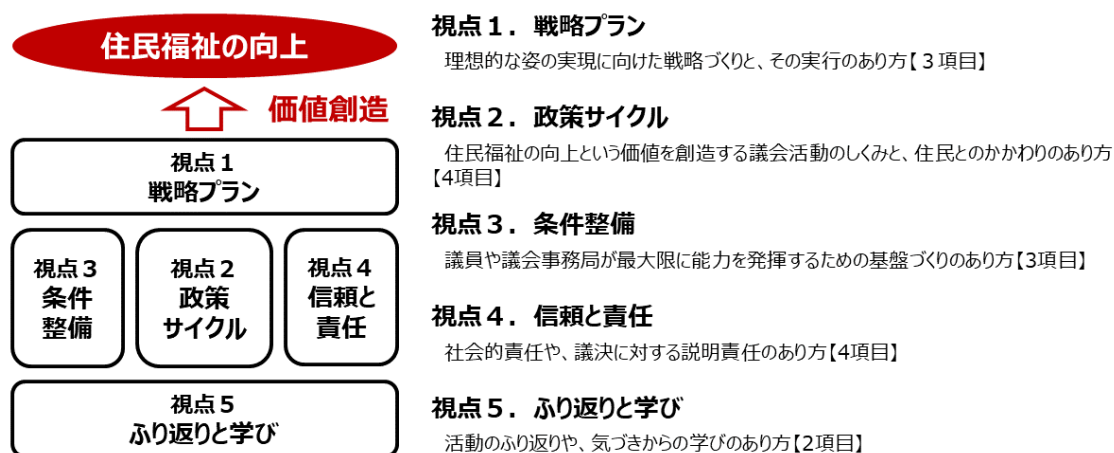
各班でのグループ討議の結果を持ち寄ったリーダー・サブリーダー会議では、評価の理由と根拠、課題及び具体的な取組事項を整理した。

リーダー・サブリーダー会議でまとめた成熟度評価の集約結果については、全議員が参集した全体会において各班のリーダーが報告し、これから取り組むべき課題などの今後の進め方に関して情報共有を実施した。

地方議会評価モデルの仕組み ②「成熟度評価」の取組

機関としての議会を包括的に評価する

➤ **組織体のマネジメントの視点(16項目)で現状分析を行うことで、議会運営の改善を促す。**



視点	項目
視点1 戦略プラン	①理想的な姿の構想 議会に期待される役割を踏まえ、めざすべき理想的な姿を構想していますか。
	②課題の明確化 理想的な姿を実現するために取り組む政策立案のテーマや、議会改革の課題を明確化していますか。
	③課題解決の具現化 理想的な姿を実現するための方策が、活動として具現化されていますか。
視点2 政策サイクル	④住民との対話 住民との意見交換会や、議会報告会を通じて、住民との対話をもとに情報収集に取り組んでいますか。
	⑤議員間の討議 議員間で討議を実施するなど、論点の明確化や合意形成に取り組んでいますか。
	⑥政策立案・提言、議案審査 議案審査を通じて執行機関に対する監視機能を発揮するとともに、調査研究活動等を通じて、議会独自の視点で政策立案・提言を行っていますか。
	⑦総合計画、政策評価、予算・決算の連動 政策体系に基づいて、政策評価、予算審査・決算審査が行われていますか。
視点3 条件整備	⑧能力向上 のぞましい議会運営を実現するために、議員と議会事務局職員が必要な能力の向上に取り組んでいますか。
	⑨体制づくりと活動基盤整備 のぞましい議会運営を実現するために、適切な体制づくりや、活動基盤の整備に取り組んでいますか。
	⑩内部資源と外部連携の活用 議会図書室やICTツールなどの情報インフラや、外部の大学の知見、他の議会等との連携を活用していますか。
視点4 信頼と責任	⑪法令等遵守 法令や政治倫理をはじめとしたコンプライアンスの順守や、社会からの要請に対応していますか。
	⑫情報公開と説明責任 議会活動全般の情報公開は、説明責任を果たすものとなっていますか。
	⑬危機管理 大災害等の非常時でも、議会が有効に機能するための準備が行われていますか。
	⑭主権者教育と選挙の充実 住民の主権者意識を醸成するための教育的活動や、選挙を充実させるための活動を行っていますか。
視点5 ふり返りと学び	⑮ふり返りの取り組み方 議会全体で、定期的な議会活動のふり返りや検証が行われていますか。
	⑯ふり返りの結果の活用 ふり返りの結果から明らかになった課題が全体で共有され、継続的な改革や取組みに活用できていますか。

成熟度評価のまとめ（できていること できていないこと）

（凡例）◎：継続的に成果を生んでいる ○：取り組んでいる △：模索している —：いずれにもあてはまらない

視点1 戦略プラン

①理想的な姿の構想	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会改革・運営ビジョンに基づくこれまでの取組に加え、評価モデルを通じ、これからの時代を見据えたビジョンが明確化された。 ・ 課題整理が出来たので、これから展開する時点
②課題の明確化	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会報告・意見交換会を通じた政策課題の明確化は、広報公聴委員会を中心に、議会全体のものとなるための仕組みによって効果を上げているが、その他の政策課題の把握が、議員個人の段階に留まっていることから、議会としての総力の発揮になっていない。 ・ 行政評価等を通じて飯田市総合計画の達成に向けた課題の明確化に取り組んでおり、議会プロフィールの中でも「4. 今後の議会を取り巻く社会環境の変化」欄で受け止めようとしている。 ・ 議会改革・運営ビジョンでは、実現に向けた取組として30以上にわたる議会改革の項目について検討してきている。（②が成熟してきた段階をもって、②と③を分けて評価できるのではないか） ・ 議会改革・運営ビジョンに基づいて行われてきたが、継続的な見直しという点では十分とは言えず、政策提言・政策立案も「言いつばなし、やりっ放し」の感は否めない。 ・ 様々な分析の観点から取り組むことを検討するまでは至っていない。
③課題解決の具現化	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「議会改革・運営ビジョンの実現に向けた取組（一覧）」で進行管理しながら行われてきた。 ・ 市民との議会報告・意見交換会、タウンミーティングをはじめ、行政評価、委員会活動など政策サイクルは構築されている。一方、ミッションは市民の意思の的確な反映であるが、それに向けて現在、取り組むべきことが具現化されてはいない。 ・ 「地方議会評価モデル」によって現在取り組んでいる最中である。

視点2 政策サイクル

<p>④住民との対話</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各常任委員会、予算決算委員会において、住民の意見を基に提案し成果を得られた事例が複数あり、議会活動に反映させる仕組みがある。 ・ 議会報告・意見交換会やタウンミーティング、各種団体との意見交換や情報収集に取り組んできた・ただし、住民が望む形であるか、満足しているかは疑問がある。市民が何を求めているのか、どうありたいのかについて、議会側との差異は無いかについて十分な検証がされていない。
<p>⑤議員間の討議</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議員間討議が一部は実施されているものの形式的なものに留まり、議員間の対話にまで踏み込めてはいない。議員間討議を継続して行い合意形成につなげるための取組を検討としている。 ・ 全議員のツールになっているとは言い難い。
<p>⑥政策立案・提言、議案審査</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常任委員会の調査研究、行政視察を通して政策提案提言につなげているが、委員会における、議案に基づく調査研究は十分とは言えない。 ・ 議会全体の意思としての政策提案にはなっていない。 ・ 議案審査においては論点の抽出が不十分であり、政策提言についても提言後の執行機関の対応についてのチェックがなされていない。
<p>⑦総合計画、政策評価、予算・決算の連動</p>	<p>◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政評価において、総合計画の体系を意識して実施している。 ・ 行政評価を用いた政策の評価が、決算審査と紐付いている。 ・ 行政評価、決算審査に基づく政策提言、予算提言が、次年度の予算審査に反映されている。

視点3 条件整備

<p>⑧能力向上</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議員、事務局で能力向上の重要性を認識しているが、理想的な姿の実現に向けて具体的な取組には至っていない。 ・ 定期的な議員研修を開催している ・ 各委員会で先進事例を、視察・研修をして取り組んでいる。 ・ 各会派も先進事例を視察・研修をして一般質問等で活用している。 ・ 各議員も能力向上のための取組をしている。 ・ 議会の政策立案力の向上のために、能力開発をめざした改革を推進している。 ・ 質問力、市民との対話能力、財政知識への能力向上が求められる。 ・ 議員として学ぶことは多いが何をを含め、手法・機会も含め少ない。また地方自治法、財政、福祉など「議会として何を学ぶべきか」の認識が明確になっていない。
<p>⑨体制づくりと活動基盤整備</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な会議体の設置など、必要な活動基盤は整備されている。 ・ 先進議会等の取組に対する情報収集を行っている。 ・ 各種の制度や活動の目的や趣旨が全議員に理解されているところまでは至っていない。 ・ 議会事務局と議会の連携にて、資質向上への取組が続けられている。
<p>⑩内部資源と外部連携の活用</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会内の人的資源、他の議会との連携、外部の大学の知見などは活用しているが、議会図書室などは一部の活用に留まっている。 ・ ICT活用による情報共有、大学機関などとの交流が図られている。 ・ 議会評価モデルの取組も外部知見の活用に含まれる。

視点4 信頼と責任

<p>⑪法令等遵守</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> 政治倫理に関する内規を制定し研修は実施しているが、住民からの信頼や要請に応えられるまでには至っていない。応えられているとは、言い切れない。
<p>⑫情報公開と説明責任</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> 飯田市自治基本条例に規定したとおり、情報を公開し、住民と情報を共有することが住民自治の基本であると認識している。 政務活動費をはじめ適切な情報公開が行われている。 情報公開と説明責任については、積極的に取り組み、議会だよりや議会報告会意見交換会などで活動報告を行っている。 日々進化している情報伝達の方法が整理されていない。
<p>⑬危機管理</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> オンラインで防災訓練を実施している。 議会BCPは、数年かけて検討し策定した。 大災害が現実のものとなった時に、どこまで機能するかは見通せてはいないのが現状 災害対策会議を軸に、議会BCPによりコロナ対策、災害対策を担う体制がある。 危機管理の必要性は、全議員で共有している。
<p>⑭主権者教育と選挙の充実</p>	<p>△</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校への出前講座は、要望に応じて実施している段階。 主権者教育の理解や必要性が議会全体の認識になっていない。 議会報告・意見交換会やタウンミーティングを通じて、議会へ参画する機会を設けているが具体的な取組には至っていない。

視点5 ふり返りと学び

<p>⑮ふり返りの取り組み方</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状できている物は今までの取組としてできているが、議会評価モデルへの取組としてはスタートラインに立っている。 ・ 定例会ごとの委員会と会派での反省、行政評価や議会報告・意見交換会など節目での振り返りは行われているが、外部に結果を公表し意見を求めるところまではしていない。 ・ 参加はしているが、議会全体での共通認識がふり返りの重要性をあまり認識していない。 ・ 議会の課題が次の任期の会期に引き継がれているが、その後の検証まで至っていない。
<p>⑯ふり返りの結果の活用</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふり返りの結果を申し送り事項として活用する仕組みは存在し、議会構成が変わっても新しい体制に引き継がれて課題解決に取り組んできているが、継続的な取組やバージョンアップに結び付いていない面がある。 ・ ふり返りにより新たな気づきとなり、議会改革へ繋げている。委員会提言、会派からのもの、更には一般質問など提言の場は多いがその後のフォローアップが出来ているかという点、課題がある。 ・ 明らかになった課題を全員で共有することや、改善に向けてどのように取り組むかが明確でない。 ・ 今までできていたことの継続継承の仕組みがない。

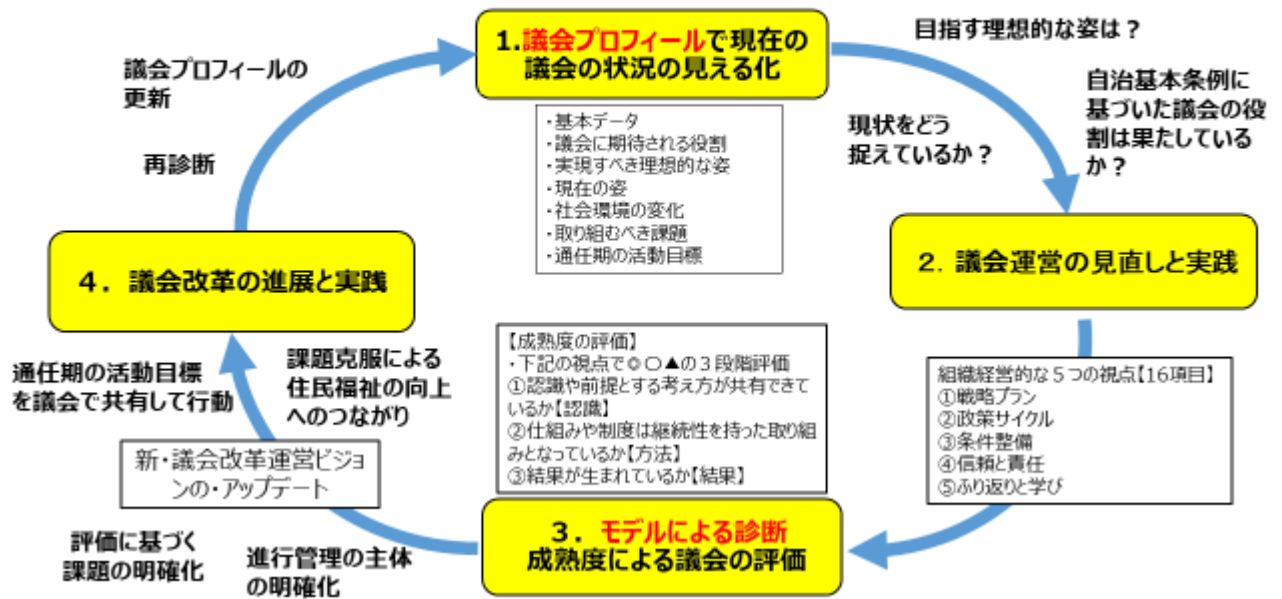
(3) 成果と今後の進行管理

地方議会評価モデルは、「議会プロフィール」と「成熟度評価」の2つが改革のツールであり、飯田市議会では、日本生産性本部や大正大学の江藤俊昭教授のアドバイスを受けながら、これまで「全議員参加型」で取り組んできた。特に、市議会が組織として「理想的な姿（ビジョン）」と理想的な姿を実現するための「取り組むべき課題」を明らかにすることができた意義は大きい。

一方、通任期6年間の活動目標に基づいた「新・議会改革運営ビジョン」の策定と評価モデルに係るふさわしい進行管理の組織の在り方については、時間的制約もあり、現在の体制では明らかにすることができなかつたため、次期体制へ申し送ることとし、議会プロフィールで2023年から2028年までを定めた通任期においては、以下のとおり進行管理を行うことを確認している。

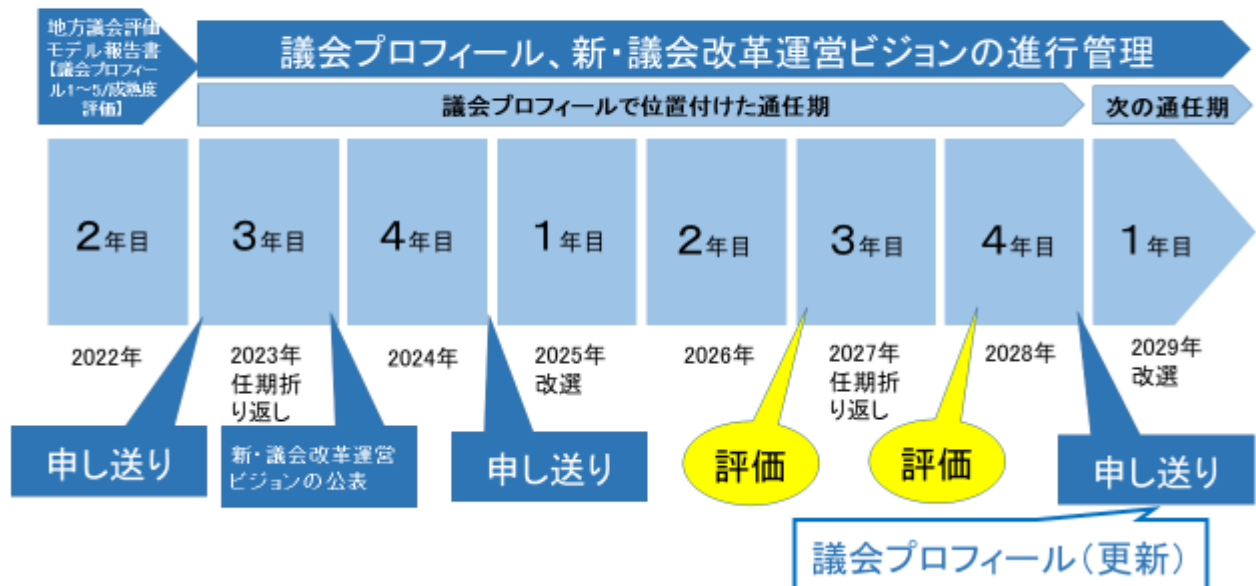
地方議会評価モデルの導入後のイメージ

地方議会評価モデルによる議会のバージョンアップ・サイクルを実現



地方議会評価モデルの進行管理のイメージ

地方議会評価モデルによる「議会活動のふり返し」



5 おわりに

“変革”への始まり

「地方議会評価モデル」（以下「評価モデル」）の取組を、私は飯田市議会の”健康診断“と解し、全議員を前に、全員で取組もうと呼びかけた。

「評価モデル」に全員で取り組むにあたっては、まずは組織体制が重要だと考え、3つのグループ分けと、それぞれのグループのリーダー・サブリーダーによる「リーダー・サブリーダー会議」を設置。この二つの体制での行ったり来たりする議論が共通認識を生むことになる。

はたせるかな、全議員での取組は容易ではなかった。

自己評価に伴う認識は、議員個々の経験と感覚が多くを占めるものであり、当然において大きなバラツキが生じたが、ここに果たしたリーダー・サブリーダーの熱量と、リーダー・サブリーダー会議における調整の役割は大きかったし、議論の深まりがあった。この会議に同席いただき、「評価モデル」の進行にアドバイスをいただいた日本生産性本部のご支援は非常に大きなものがあった。

その過程で生まれたのが、「評価モデル」のプログラムにはない飯田市議会独自の「スローガン」を制定するという発想である。プログラムには、ビジョンとミッションを考えることが示されているが、誰にでもわかる、例えば封筒にも印刷できるキャッチフレーズを、との思いがリーダー・サブリーダー会議で広がり、何時間もかけて議論し、行ったり来たりしてスローガンは定まった。

今後の進行管理においては、「評価モデル」のこれまでの成果を活かすための組織体制が重要になる。スローガンに「市民とともに・・・」と謳われていることから、議会内部での評価に留まることなく、市民による外部評価も合わせることによって、政策サイクルの結節点となるような会議体が望まれる。

ところで、この度の「評価モデル」の取組における議会事務局の存在は大きかった。時に議会側からは“僭越”とも取られるほどの議会事務局の進言ぶりは、まさに、市民の側に立った政策形成機能を発揮するための補佐機能として存在するものであり、議会＋事務局の「チーム飯田市議会」を体現する場面でもあった。

私たちは今、議会のあるべき姿を見直そうとした20年前の「議会在り方研究会」の原点に戻っている。ただ当時は、改革のために見直すという視点であったが、今般の評価モデルの取組は、住民福祉の向上につなげ、議会に対する住民の信頼づくり（議会は自分たちのものと思ってもらえる）を目指す新しい時代にあつての議会とはどうあるべきか、との視点で取り組んでいることが、まさに「議会改革の第2ステージ」（「評価モデル研究会」）であることを実感している。

飯田市議会の、存在する議会から機能する議会への“変革”は、「評価モデル」の“まとめ”に始まったばかりである。

令和5年4月

飯田市議会議長 井坪 隆

議会改革推進会議 名簿

職 名	氏 名	会 派 名	備 考
委員長	古川 仁	日本共産党	
副委員長	永井 一英	公明党	
委 員	小平 彰	新政いいだ	
委 員	下平 恒男	新政いいだ	
委 員	橋爪 重人	新政いいだ	
委 員	西森 六三	会派きぼう	
委 員	岡田 倫英	会派きぼう	
委 員	佐々木 博子	会派みらい	
オブザーバー	井坪 隆	会派みらい	議長
オブザーバー	山崎 昌伸	新政いいだ	副議長

飯田市議会
地方議会成熟度評価モデル実施報告書

2023（令和5）年4月21日

発行：飯田市議会事務局

電話：0265（22）4523

飯田市議会ホームページ：<https://www.city.iida.lg.jp/site/assembly/>